

土曜

ASHUREY CLASS

原文で味わう詩篇23篇

תהלים

No.5 2026. 1. 10

1. テキスト

24

「いまだ」なされていない栄光の王、
すなわち再臨のキリストの到来の預言

23

復活によってもたらされた「いのちを与える霊」、
すなわち「霊の中に生きること」の喜びが綴られ
預言されています。

22

イエシュアの受難
と死と復活の預言

1. 全体のテキスト

【新改訳2017】 詩篇23篇 ダビデの賛歌

- 1 主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。
- 2 主は私を緑の牧場に伏させ いこいのみぎわに伴われます。
- 3 主は私のたましいを生き返らせ
御名のゆえに 私を義の道に導かれます。
- 4 たとえ 死の陰の谷を歩むとしても 私はわざわざいを恐れません。
あなたが ともにおられますから。
あなたのむちとあなたの杖 それが私の慰めです。
- 5 私の敵をよそに あなたは私の前に食卓を整え
頭に香油を注いでくださいます。私の杯は あふれています。
- 6 まことに 私のいのちの日の限り
いつくしみと恵みが 私を追って来るでしょう。
私はいつまでも 主の家に住みます。

2. 「人称」①

【新改訳2017】 詩篇23篇 ダビデの賛歌

- 1 主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。
- 2 主は私を緑の牧場に伏させ いこいのみぎわに伴われます。
- 3 主は私のたましいを生き返らせ
御名のゆえに 私を義の道に導かれます。
- 4 たとえ 死の陰の谷を歩むとしても 私はわざわざを恐れません。
あなたが ともにおられますから。
あなたのむちとあなたの杖 それが私の慰めです。
- 5 私の敵をよそに あなたは私の前に食卓を整え
頭に香油を注いでくださいます。私の杯は あふれています。
- 6 まことに 私のいのちの日の限り
いつくしみと恵みが 私を追って来るでしょう。
私はいつまでも 主の家に住みます。

2. 「人称」 ②

●詩篇23篇は「主」と「私」という人称しかありません。4～5節では「主」が「あなた」に置き換えられています。この詩篇は「主と私のかかわり」を語っている詩篇です。

●ところで、ここにある「私」とは誰のことを指しているのでしょうか。表題にはダビデによるとありますから、ダビデだと思ってしまう。詩篇の多くはダビデによるものですが、イエシュアはダビデよりも前におられる先取的な存在です。つまり、ダビデはイエシュアを証しするために存在させられているという前提で見ると、この視点は「御父と御子のかかわり」を歌った詩篇と見ることができます。その御子は「人となられたイエシュア」です。そのかかわりの中に、私たちをも招かれています。

3. 今回のテキスト

- 今回取り上げるのは、3節後半です。
「御名のゆえに 私を義の道に導かれます。」という預言です。

口語訳「み名のために、わたしを正しい道に導かれる。」

回復訳「彼の御名のために、わたしを義の途に導かれます。」

NKJV : He leads me in the paths of righteousness
For His name's sake.

Hebrew : ^{シエモー} שְׁמוֹ ^{レマアン} לְמַעַן ^{ヴェマゲレー・ツエデク} בְּמַעַגְלֵי צְדָקָה ^{ヤンヘーニー} יְנַחֵנִי
御名 のために 私を義の道(途)に 導かれます

4. 「導かれる」(ナーハー : הָרָה) ①

(1)動詞「**導かれる**」(ナーハー : הָרָה)の主体は「御名」である御父です。御父が御子を導くために重要なことは、御子の御父に対する従順と謙遜です。御子は御父の表現者であり、御父のくびきをとともに負っておられる方なのです。

●御父と御子の関係は、聖書の中では

- ① 「主人としもべ」
- ② 「神とイスラエル」
- ③ 「イエシュアと弟子たち」
- ④ 「男と女」などに、敷衍(ふえん)していきます。

4. 「導かれる」(ナーハー : הָנַחַךְ) ②

● 動詞「導かれる」(ナーハー : הָנַחַךְ)の初出箇所を見てみます。

①【新改訳2017】創世記 24章27節

こう言った。「私の主人アブラハムの神、主がほめたたえられますように。主は、私の主人に対する恵みとまことをお捨てになりませんでした。主は道中、この私を導いてくださいました。主人の兄弟の家まで。」

②【新改訳2017】創世記 24章48節

そして私はひざまずき、主を礼拝し、私の主人アブラハムの神、主をほめたたえました。主は、私の主人の親族の娘さんを主人の息子に迎えるために、私を確かな道に(ベデレフ・エメット : בְּדֵרֶף אֱמֶט)導いてくださったのです。

※ここに、「～のために」「～の道に」「導かれる」があります。

4. 「導かれる」(ナーハー : נָהַר) ③

●①②はアブラハムに仕える最年長のしもべ「エリエゼル」のことばです。彼には重要な使命が託せられたのです。それは、イサクの嫁を探しだすという務めでした。これはアブラハムにとって最後の仕事でもありました。なぜなら、イサクに嫁を見出すことがなければ、神の約束が成就することがないからです。アブラハムはエリエゼルに誓わせます。

【新改訳2017】創世記24章3～4節

- 3 「・・・私はカナン人の間に住んではいるが、あなたは、その娘たちの中から、私の息子の妻を迎えてはならない。
- 4 あなたは、私の国、私の親族のところに行って、私の息子イサクに妻を迎えなさい。」

4. 「導かれる」(ナーハー : נָהַרְ) ④

●エリエゼルは、そのためにアブラハムの親族のいる生まれ故郷へ(おそらく「ハラン」、「アラム・ナハナイムのナホルの町」とも言う)と旅立ちます。果たして、最もふさわしいイサクの嫁が見つかるかどうか、たとえ見つかったとしても、長い旅をしてまでついて来てくれるのかどうか、ただただ神の導きに頼らざるを得ませんでした。

●アブラハムには必ず見つかるという確信がありました。なぜなら、「神があなたの前に御使いを遣わされる」という啓示を受けていたからです。そして結果は、先ほどの①②のみことば通りです。嫁となる妻の名前は「リベカ」でした。そのリベカの返答は、なんと一言、「はい、行きます」(エーレーフ : אֵלֵךְ)でした。これは、エリエゼルに対する神の導きでしたが、この導きは「わたしはあなたを大いなる国民とし」(創12:2)のアブラハム契約に基づく導きでした。

5. 「義の道に」 (ヴェマゲレー・ツエデク) ①

- 「ヴェマゲレー・ツエデク」 (אֲדָמָה יְשִׁירָה) を「**義の道**」と訳しているのは新改訳だけで、新共同訳、関根訳、フランシスコ会訳、口語訳、典礼訳では「**正しい道**」と訳しています。英語訳では、true paths(Moffat訳), straight paths(Jerusalem訳), paths of righteousness(NIV), sure paths(Knox)です。
- 「正しく、まっすぐで、真実で、確かな」神とのかかわりの道とは、イエシュアにある道しかありません。私たちの努力や頑張りでつくることのできない道です。すでに御子イエス・キリストが歩いてくださったいのちの小道、そこに神は私たちを導かれ、主にある祝福をもたらそうとしています。

5. 「義の道に」 (ヴェマゲレー・ツエデク) ②

- 詩篇73篇のアサフの詩篇にこうあります。

【新改訳2017】 詩篇 73篇24節

あなたは私を諭して導き(ナーハー：הָנִחַן)

後には栄光のうちに受け入れてくださいます(ラーカハ：הִקְבִּילֵנִי)。

- 「諭して」と訳された「エーツアー」(הִנְחֵנִי)は「神のご計画に従って」という意味です。つまり「義の道」「正しい道」とは「神のご計画に従って」と解することが言えます。イエシュアの一連の贖いの出来事は、すべて神の奇しい「導き」によってなされたことです。それゆえ、神の時が来なければ、イエシュアは殺されることはありませんでした。

6. 「御名のゆえに」 (レアマン・シエモー) ①

- 最後の「御名のゆえに」 (レアマン・シエモー : לְמַעַן שְׁמִי) とはどのようなことでしょうか。
- 英語でも、for . . . 's sake という表現を用いて「何のために」「何のゆえに」という「何」の動機、目的、理由をより明確にします。たとえば、for money's sake と言えば、動機、目的、理由が「お金のため」ということが強調されます。聖書のこの箇所では、for his name's sakeとあり、「主の御名」こそが、すべての動機、目的、理由として強調されています。ここでは、神のご計画のために導かれることが、すべて「御名のゆえに」であり、「御名のために」だということです。

6. 「御名のゆえに」(レアマン・シエモー) ①

●旧約には「わたし自身のために」とか、「わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行なう」ということばが見られます。

①【新改訳2017】イザヤ書43章25節

わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたの背きの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。

②【新改訳2017】イザヤ書48章9～11節

9 わたしの名のために怒りを遅らせ、わたしの榮譽のためにそれを抑えて、わたしはあなたを絶ち滅ぼさなかった。

11 わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行う。

どうしてわたしの名が汚されてよかろうか。
わたしの栄光を、ほかの者に与えはしない。

6. 「御名のゆえに」(レアマン・シエモー) ②

●旧約には「わたし自身のために」とか、「わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行なう」ということばが見られます。

①【新改訳2017】イザヤ書43章25節

わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたの背きの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。

②【新改訳2017】イザヤ書48章9～11節

9 わたしの名のために怒りを遅らせ、わたしの榮譽のためにそれを抑えて、わたしはあなたを絶ち滅ぼさなかった。

11 わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行う。

どうしてわたしの名が汚されてよかろうか。
わたしの栄光を、ほかの者に与えはしない。

6. 「御名のゆえに」 (レアマン・シエモー) ③

● 「わたし自身のために」、「わたしの名のために」、「わたしのために」とはどういうことかといえは、それは主がひとたび選んだ者に対して、ご自身の名誉にかけて、どこまでも全責任を負うという意味です。そのようにして私たちにいかかわってくださるとは、なんとという恩寵でしょうか。すべての事において、神の御手が働いているのです。御手の「ヤード・アドナイ」のゲマトリアは、 $14 + 26 = 40$ です。どんな試みが襲ってきても、神の御手によって守られるのです。

【新改訳2017】詩篇 139篇10節

そこでもあなたの御手が私を導き あなたの右の手が私を捕らえます(=支えます)。

● 「主がひとたび選んだ者」とは「王なる祭司」のことです。今回、例に挙げたエリエゼルは「しもべ」です。アサフも然りです。イスラエルの残りの者も然りです。当然、イエシュアも然りです。神はご自身のご計画を担う「王なる祭司」に対して、懇ろな導きを与えてくださるのです。

今回のまとめ

- 「御名のゆえに 私を義の道に導かれます。」

この祝福は、第一義的に御子に与えられるものです。しかし

「幸いなことよ すべて主に(原文=彼に)身を避ける人は」(詩2:12)とあります。彼である「御子」の中へと入り、御子と一つになること、そのような人は「彼(御子)に身を避ける人」であり「幸いにことよ」と人称なき存在である「聖霊」が語っています。

- 「彼(御子)に身を避ける人」は、すべて「**王なる祭司**」です。このような人を、神は懇ろに(親密に)導かれるのです。